

平成27年度 維持管理状況(3月1日～31日)

<工場設置計器の測定結果>

清掃工場名等	焼却能力	炉番号	処分した一般廃棄物	ごみ焼却量	燃焼室ガス温度	集じん器入口ガス温度	排ガス中の一酸化炭素濃度(煙突) (O ₂ 12%換算)	冷却設備及び排ガス処理設備に堆積したばいじんの除去
	t/日							
目黒	600	1号炉	可 燃 し み	2,952.54	925~1,099	159~161	2~20	ボイラ設備の除じんはボイラストロワ又はボイラ槌打装置により毎日実施する。ろ過式集じん器の除じんは空気式自動洗浄装置により毎日実施する。
		2号炉		6,986.19	927~1,079	159~161	0~22	
有明	400	1号炉		5,619.43	1,007~1,165	172~176	0~79	
		2号炉		5,600.53	974~1,142	172~176	0~67	
千歳	600	1号炉		15,757.06	921~1,092	157~164	8~20	
江戸川	600	1号炉		5,507.98	893~963	170~171	0~3	
		2号炉		7,215.50	878~948	170~171	0~11	
墨田	600	1号炉		9,123.76	953~1,098	159~161	1~5	
北	600	1号炉		3,512.94	979~1,233	158~169	4~36	
新江東	1,800	1号炉		17,393.57	995~1,188	166~172	0~19	
		2号炉		11,466.71	951~1,155	167~171	0~20	
		3号炉		3,449.37	1,009~1,135	167~171	0~11	
港	900	1号炉		1,724.41	1,000~1,224	166~168	2~25	
		2号炉		7,307.41	918~1,173	167~169	1~23	
		3号炉		8,596.54	919~1,172	165~167	0~26	
豊島	400	1号炉		5,448.45	871~927	167~169	1~61	
		2号炉		5,568.23	857~926	166~168	3~52	
渋谷	200	1号炉		3,429.14	868~1,007	145~170	0~24	
中央	600	1号炉		8,204.54	935~1,111	149~152	0~32	
		2号炉		2,899.97	942~1,044	147~151	0~27	
板橋	600	1号炉	7,297.13	989~1,195	161~165	0~20		
		2号炉	7,349.91	909~1,170	160~165	0~8		
多摩川	300	1号炉	3,786.20	890~1,024	155	0		
		2号炉	3,692.98	887~1,018	155	0		
足立	700	1号炉	8,924.92	900~1,026	172~174	0~12		
		2号炉	9,338.56	916~1,058	171~172	0~20		
品川	600	1号炉	7,813.55	870~1,037	159~168	0~16		
		2号炉	7,798.86	900~1,038	158~163	0~24		
葛飾	500	1号炉	6,580.67	944~1,105	157~165	0~28		
		2号炉	6,849.56	952~1,106	159~161	4~34		
世田谷	300	1号炉	893.20	866~988	167~183	0~12		
		2号炉	2,891.26	905~1,039	167~185	0~52		
大田	600	1号炉	7,793.03	846~1,008	152~168	4~43		
		2号炉	7,871.60	882~1,024	148~163	6~33		
練馬	500	1号炉	7,053.02	857~1,031	151~165	1~64		
		2号炉	3,640.69	901~1,012	153~166	0~21		
破碎ごみ処理施設	180	1号炉	破碎した可燃系粗大ごみ	2,366.14	853~951	154~162	1~102* ^①	

注:光が丘清掃工場、大田清掃工場 第一工場、中防灰溶融施設は休止しています。

測定値が維持管理計画値を超過した(下回った)理由(*)

平成27年度 維持管理状況(3月1日～31日)＜工場設置計器の測定結果＞より

① 破碎ごみ処理施設 1号炉 3月 13日(日) 11:00

排ガス中の一酸化炭素濃度が、煙突入口連続測定器で102ppmを記録した。

原因は、ごみ供給機においてごみの圧密が発生し、ごみ供給不足による酸素供給過多となり、酸素濃度12%換算値における一酸化炭素濃度が上昇したことによる。

直ちに、燃焼空気量及びごみ供給量の調整を行い燃焼改善を図った。

その結果、維持管理計画値以下の正常な燃焼状態に回復した。